

巻 頭 言

2020年度より横山伸也先生の後任としてサステナビリティ研究所の所長を拝命致しました。2019年度の事業報告書の発刊に際しまして、一言ご挨拶を述べさせていただきます。

本年度よりサステナビリティ研究所は、旧SDGs幹事会を統合し、以前からの特別シンポジウム、エネルギー教室、企業・行政との技術懇話会等の年間諸行事に加えSDGs関連の諸事業の推進を目指して組織改編を実施いたしました。研究所の活動分野が拡充され、体制も副所長ポストが新設され、より強固なものに生まれ変わりました。このような新生サステナビリティ研究所を、今後来るべき新しい時代にマッチした研究所にすべく、運営を図っていく所存であります。

新生サステナビリティ研究所の船出にあたり、今年度の諸行事等の計画を作成しました矢先、新型コロナウイルスによる感染症の日本全国への流行によって、研究所運営のみならず、大学全体の機能を一時期停止せざるをえない事態に遭遇致しました。入学式の中止、新生及び在校生へのガイダンスの大幅延期、慣れない遠隔授業への取り組み等、大学をあげてこの対策を実施する事になり、今現在もその対応は模索、継続されているところであります。

このような世界全体をも巻き込んだ大規模な感染症の流行は、いわゆる「スペイン風邪」以来約百年ぶりの大惨事と聞きます。言い換えれば、前回の大規模感染以降百年間で築いた近代化の文明・技術・生活様式がこのウイルスの脅威にどう打ち勝つことができるかの試練を迎えていると言えるでしょう。この天変地異を目の前にし、われわれ自然科学、人文科学を研究する者にとって、新型コロナウイルスの猛威は大きな教訓を与え、研究テーマ、研究生活を変えるきっかけにもなり得ると感じます。今後のサステナビリティ研究所の方向性を占う結果になるやも知れません。

新型コロナウイルス対応を終え、一日も早く大学運営が正常に戻り、本来のサステナビリティ研究所の研究、運営活動を再開できる事を切に望みます。

最後に、新生サステナビリティ研究所の確実な推進をお誓いすることで、巻頭言に代えさせていただきます。

2020年6月吉日
サステナビリティ研究所長
田島 正喜